

令和 2 年度市民活動支援センター
市民活動に関するアンケート調査結果報告書
【個人編】

調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター

I はじめに

市民活動支援センターは、平成17年2月に開設以来「自立した市民社会の創造」をミッションに市民が自ら主体的に社会参加し、市民活動を行う「市民が主役のまちづくり」を目指し、多様な市民活動を支援する拠点として、様々な取組を行ってきた。

平成30年に策定した「市民活動支援センター中長期運営方針（ビジョン）」では、1. 人材を発掘し、育成する 2. 行き交う情報の有効活用 3. 市民活動助成事業「えんがわファンド」を活用した市民活動支援の充実 4. パートナーシップの強化 5. 災害時の支援の5つの柱を掲げ、これらを推進していくことが、課題解決に向かって市民自らが関わりまちを創造していくために重要であると考え、多様な活動に取り組んでいる。

市民活動支援センターが、多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら市民の主体的・公益的な活動を支援していくうえで、市民活動団体の活動状況や経年変化、センターへの期待等を把握し、センターの取組に生かしていくことを目的に、令和2年2月に「市民活動に関するアンケート調査【団体編】」を実施した。

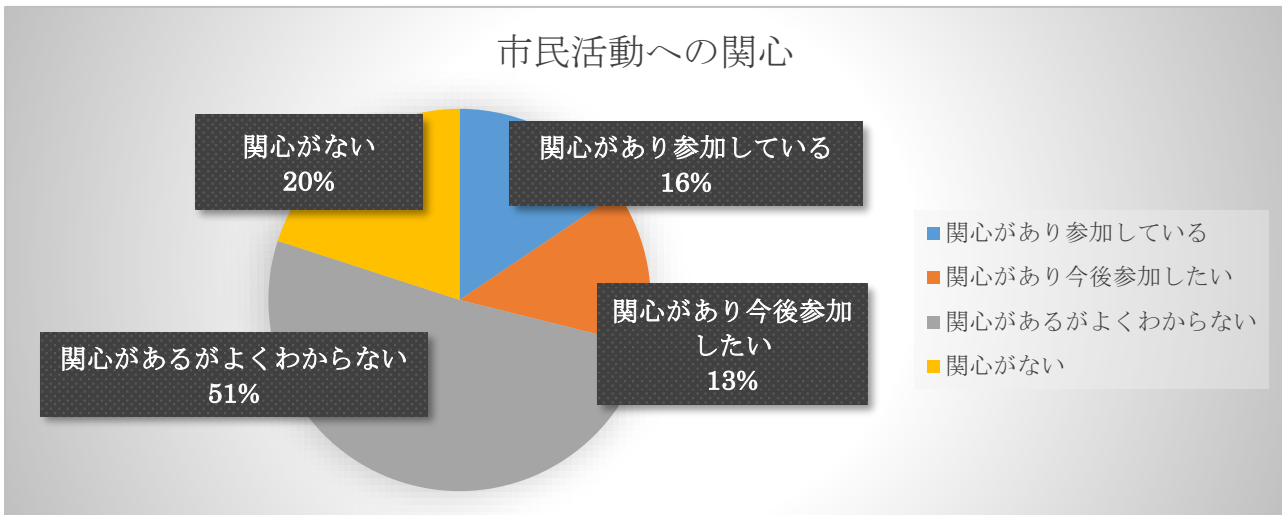
II 調査の概要

期間	令和3年2月19日～3月19日
対象	① 令和3年1月1日現在、市内にお住まいの16歳以上の市民（無作為抽出500人） ② 市民活動支援センター来場者 ③ 当センターホームページで本調査事業に関心をもった方
手法	郵送若しくは窓口配布、当センターホームページフォームによるアンケート調査
回答数	（無作為郵送88、インターネット回答35、センター利用者回答13） ① 性別：男性：53人 女性：81人 その他：2人 ② 年齢：10代：7人 20代：12人 30代：14人 40代：35人 50代：24人 60代：15人 70代：19人 80代以上：10人 ③ 職業：自営業・自由業：19人 会社員・公務員・団体職員：46人 学生：11人 専業主婦（夫）：19人 パート・アルバイト：16人 無職：18人 その他：2人 ④ 市内在住年数：1年未満：3人 1～10年：37人 11～20年：31人 21～40年：34人 41年以上：30人 市外：1人 ⑤ 地域：入間町：7人 上石原：2人 菊野台：5人 国領町：10人 小島町：7人 佐須町：5人 柴崎：8人 下石原：12人 深大寺東町：5人 深大寺南町：2人 深大寺北町：1人 深大寺元町 3人 仙川町：9人 染地：4人 多摩川：12人 調布ヶ丘：5人 飛田給：6人 西つつじヶ丘：5人 西町：0人 野水：0人 東つつじヶ丘：1人 富士見町：4人 布田：4人 緑ヶ丘：3人 八雲台：1人 若葉町：3人 深大寺：1人 不明：3人

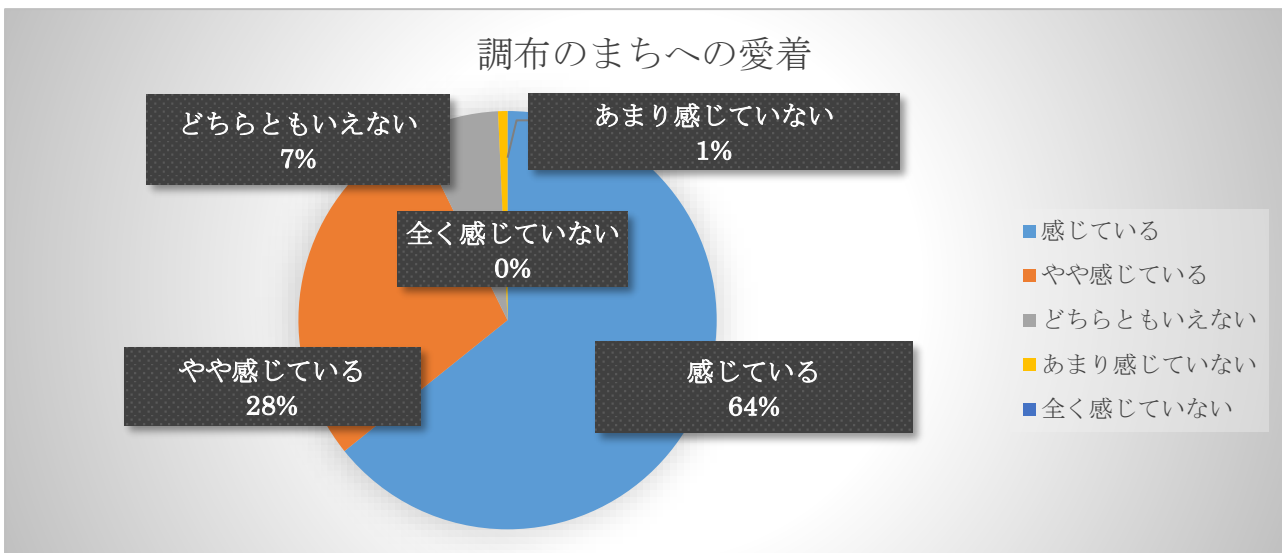
内容（項目）	市民活動への関心、調布のまちへの愛着、関心のあるテーマ、活動歴、参加状況、情報収集方法、参加のきっかけ、今後の地域や社会との関わり方、当センター・ランチの利用状況や期待する機能、当センターの情報発信について、コーディネーターへ期待すること他
--------	--

Ⅲ 各設問別回答結果

問 1 ボランティアや NPO など市民活動の取り組みについておたずねします。他の人や社会のために自ら進んで活動するボランティアや NPO など市民活動に関心がありますか



問 2 調布のまちに愛着を感じていますか。

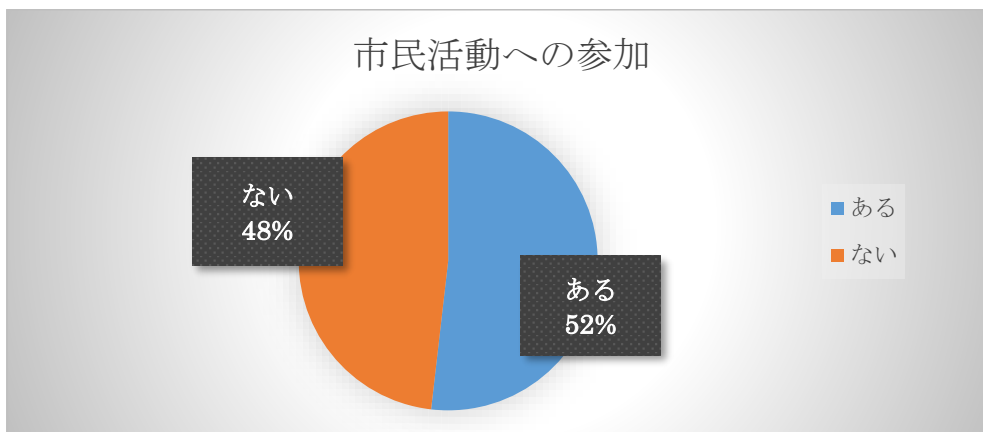


問 3 現在、地域や社会の話題やテーマで関心のあることはどんなことですか。

- 1) 新型コロナウイルスの感染状況やワクチン接種について
市民に必要な情報が少ないと感じている、コロナ禍の先の見えない状況が不安、コロナの収束、ワクチン接種、コロナによる影響に対しての支援や補助
- 2) コロナ禍での人間関係の変化
コロナ禍での地域や社会との付き合い方、コロナ禍での人とのつながり、コロナ後の社会

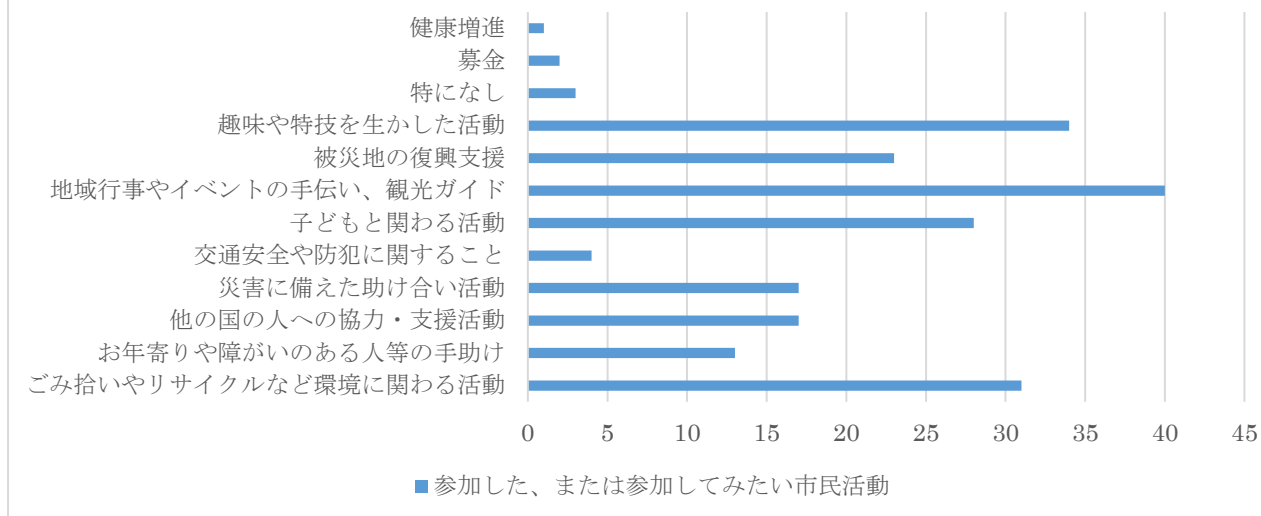
- 3) 子どもに関わることにについて
子育てや少子化、子どもの貧困、待機児童問題や保育園について、子ども遊び場や治安、教育
- 4) 高齢者に関わることにについて
地域の医療や在宅医療、一人暮らし高齢者の見守り、高齢者向けの健康増進活動、フレイルの問題、高齢者の災害時対応、地域住民の高齢化
- 5) 災害や防災に関わることにについて
防災訓練（災害時の対応）、災害時の避難場所の拡張、災害時に地域で協力し助け合うためにはどうしたらよいか、被災地の支援
- 6) 環境問題等に関わることにについて
温暖化、ごみの分別、カラスによるゴミの散乱、緑地化、リサイクル、環境に配慮した生活
- 7) 調布駅前等の開発に関わることにについて
駅前広場の使い方や元京王線の空き地の利用方法、調布駅前がより一層にぎやかで住みやすい街になること、駅前の活性化と景観の向上、京王多摩川駅周辺の今後について
- 8) 障がいのある方に関わることにについて
障がい者の雇用、障がい児の生活や社会参画、聴覚障がい者福祉
- 9) その他
スポーツ、ニートや引きこもりの社会参加、外国籍の方の問題、コミュニティバスの継続、空き家問題、SDGs、映画のまちシネマフェスティバル、緊急事態宣言解除後の Goto トラベルキャンペーン、地域の活性化、調布駅前広場でのイベント、保護犬・保護猫の活動、ボランティア活動の種類、貧困や格差の問題、健康、まち歩き、タバコ対策、調布の歴史や特徴、調布の PR、緑の減少、テレワーク、近所付き合いの少なさ、畑での活動、歩きやすい歩道や休めるベンチ、自転車のマナー、身体を動かせる場所が遠い、時間がない、関心がない、よくわからない

問 4 これまでに市民活動に参加したことがありますか(募金・寄付なども含む)。

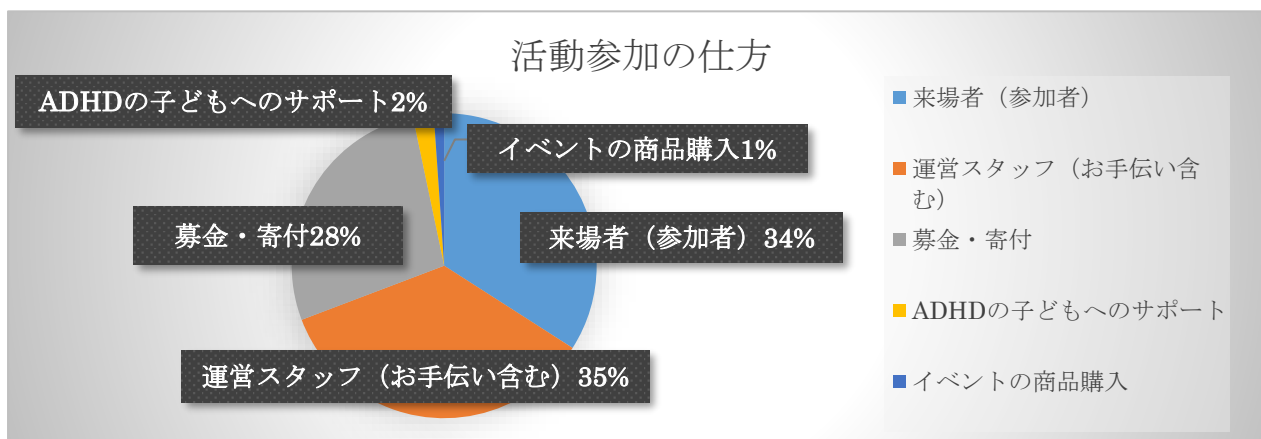


問 5 問 4 で「ある」と答えた方はどのような活動ですか。あてはまる市民活動に✓をつけてください。また、問 4 で「ない」と答えた方は、これから参加してみたい活動、これならできると思う活動を選択してください。

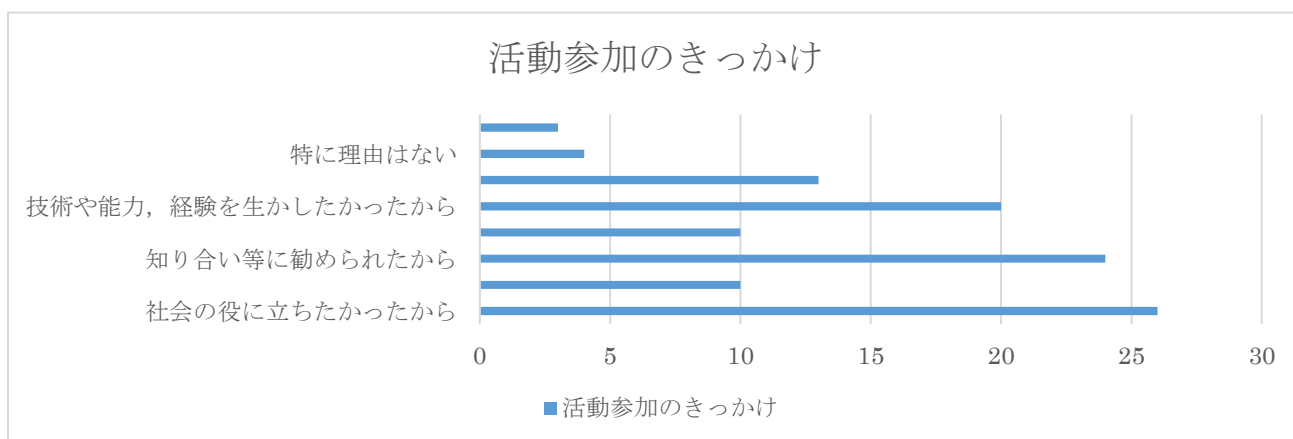
参加した、または参加してみたい市民活動



問6【問4で「ある」と答えた方】にお尋ねします。活動の参加の仕方について教えてください。



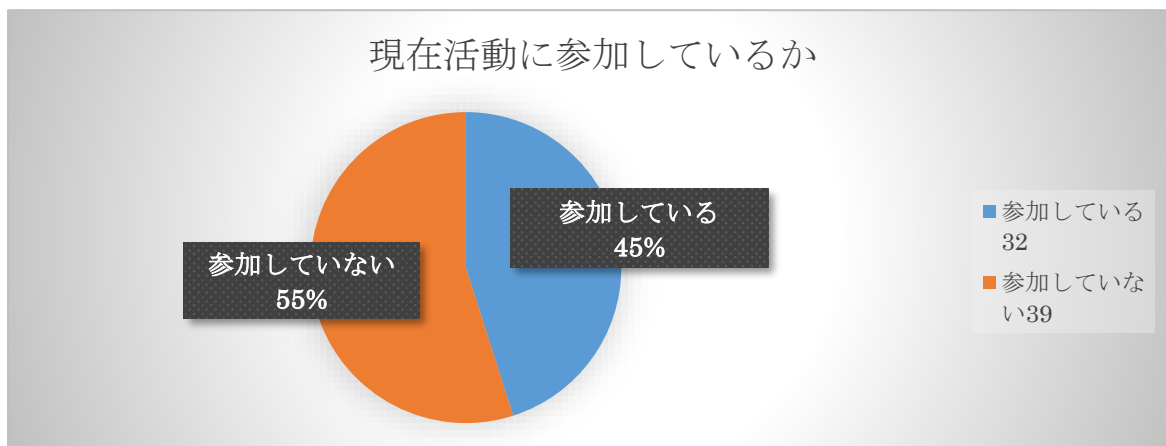
問7【問4で「ある」と答えた方】にお尋ねします。問5で選択した活動に参加したきっかけを教えてください。



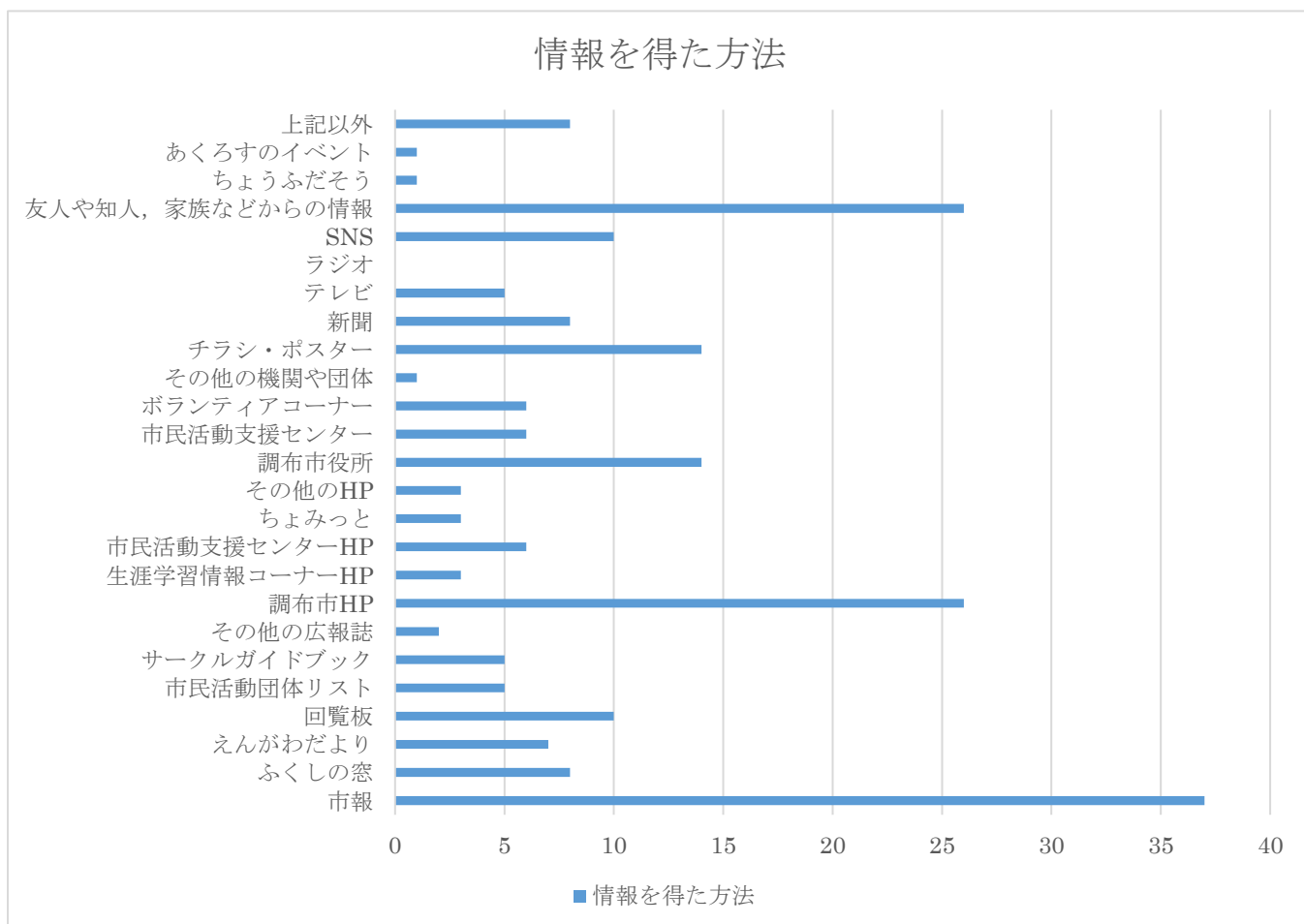
問7-a 「知り合い等に勧められたから」とお答えになった方はどのような方からのお誘いかご記入ください。

友人、家族・親族、子供の学校関係

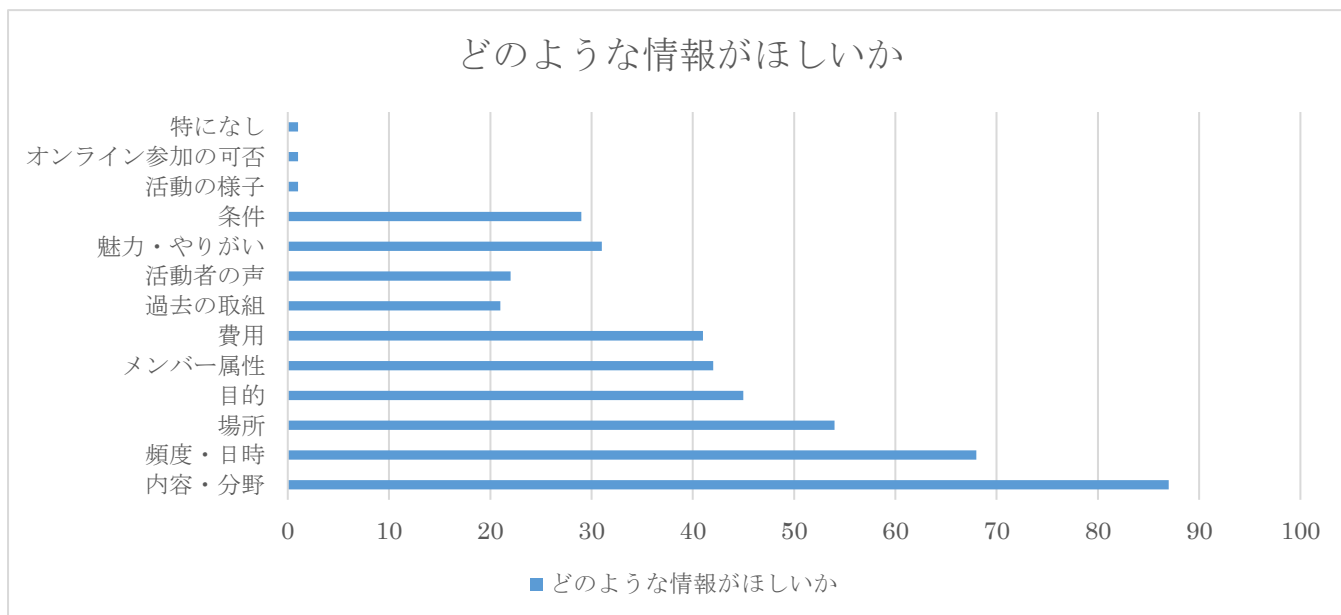
問8 【問4で「ある」と答えた方】にお尋ねします。問5で選択した活動に現在も参加していますか。



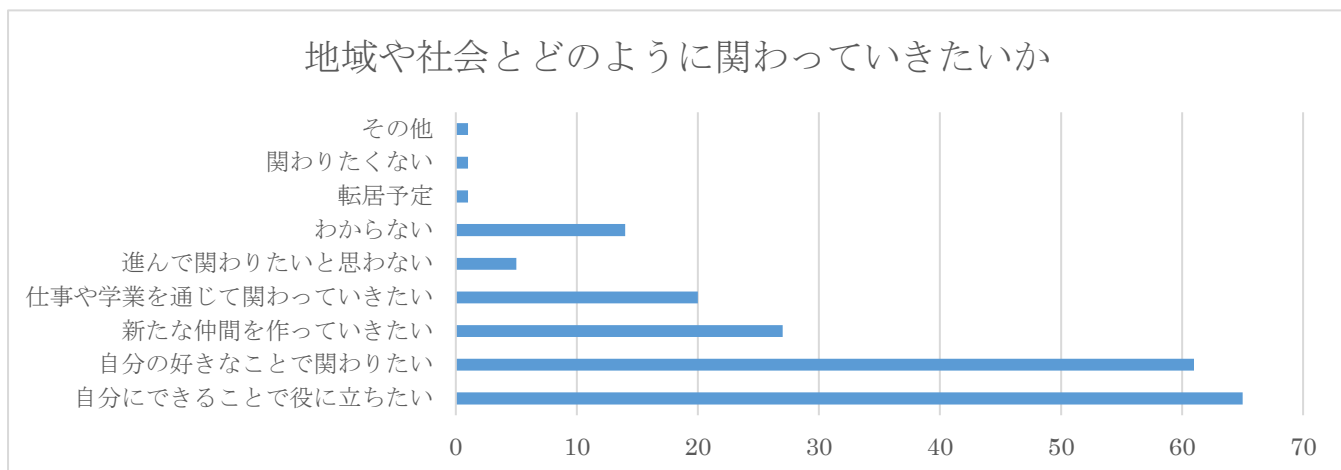
問9 市民活動に参加したことがある方はどのような方法で情報を得ましたか。また、「これから参加したい」とお考えの方はどのような方法で情報を得ようと思いますか。



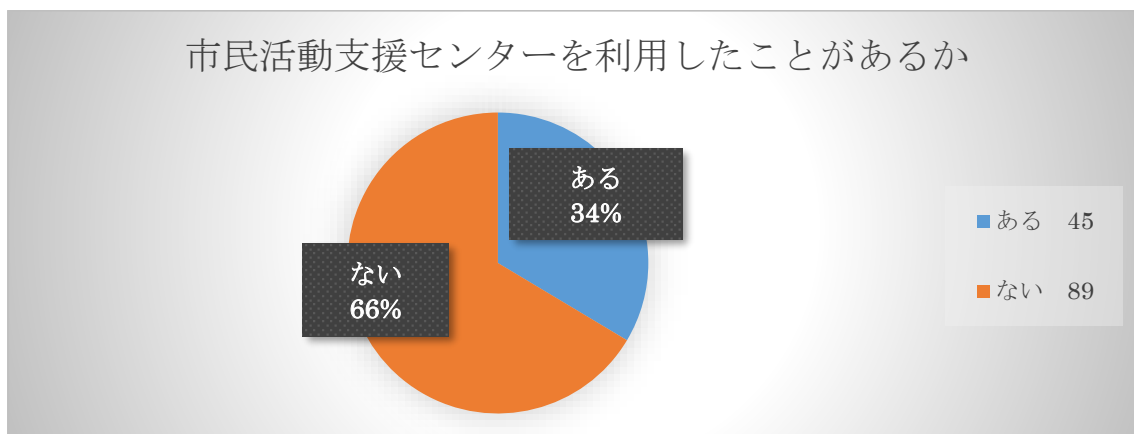
問 10 市民活動に参加したことがある方も、「これから参加したい」とお考えの方も、参加するうえでどのような情報が欲しいですか。



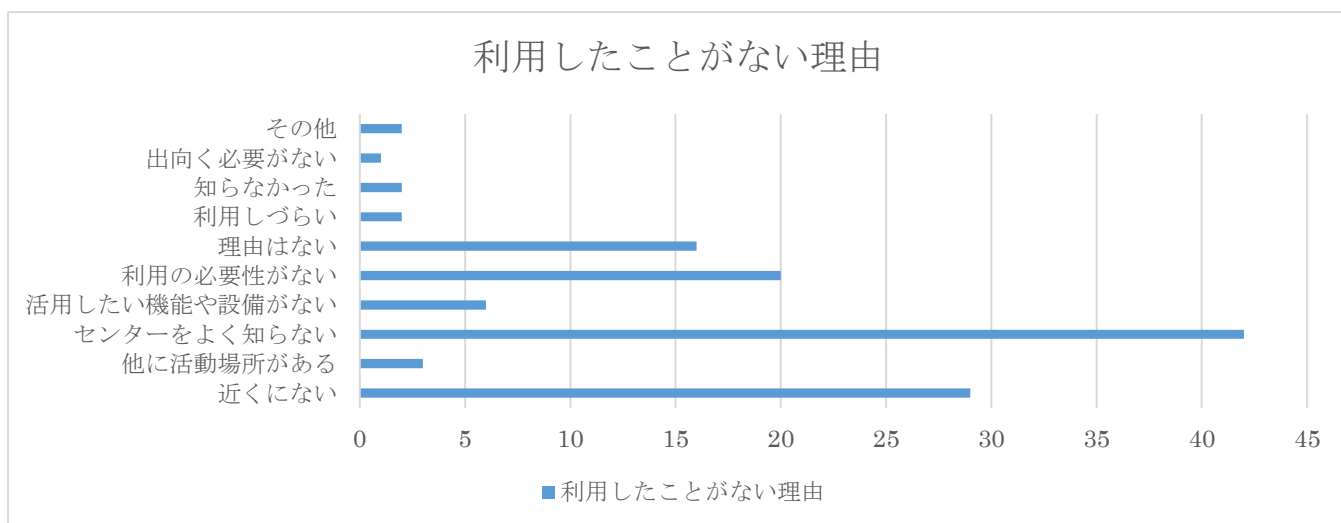
問 11 あなたは今後、地域や社会とどのように関わっていきたいと思いますか。



問 12 市民プラザあくろす市民活動支援センターについておたずねします。各設問について該当する項目を選択してください。市民活動支援センター（以下、「センター」）を利用したことがありますか。



問 13 【問 12 で「利用したことがない」と答えた方へ】その理由についてお聞かせください。



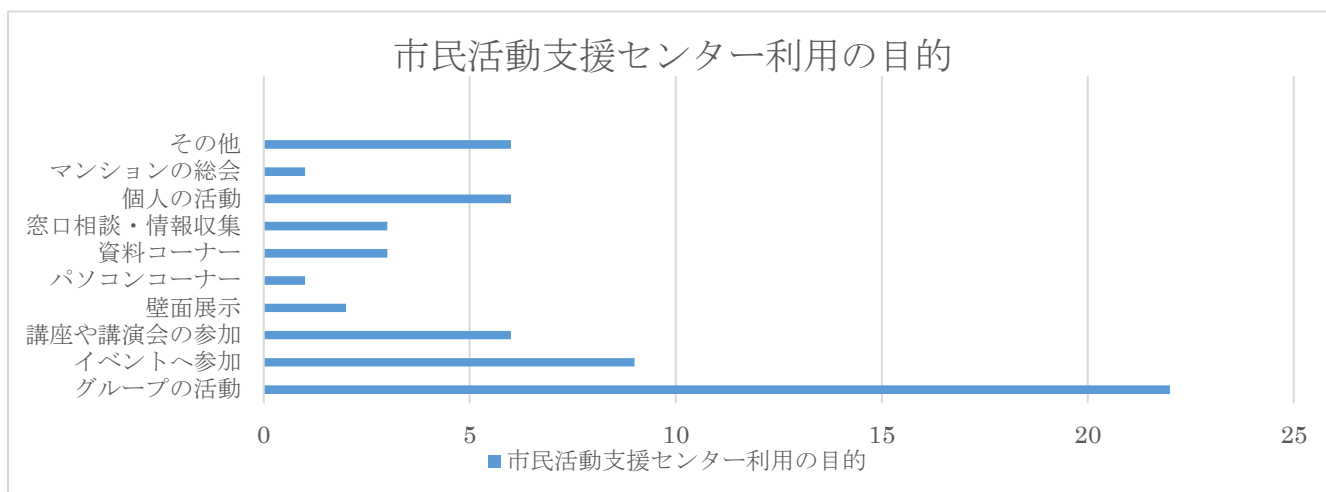
問 13-a 「他に活動場所がある」とお答えになった方はどのような場所・施設かご記入ください。

高齢者施設

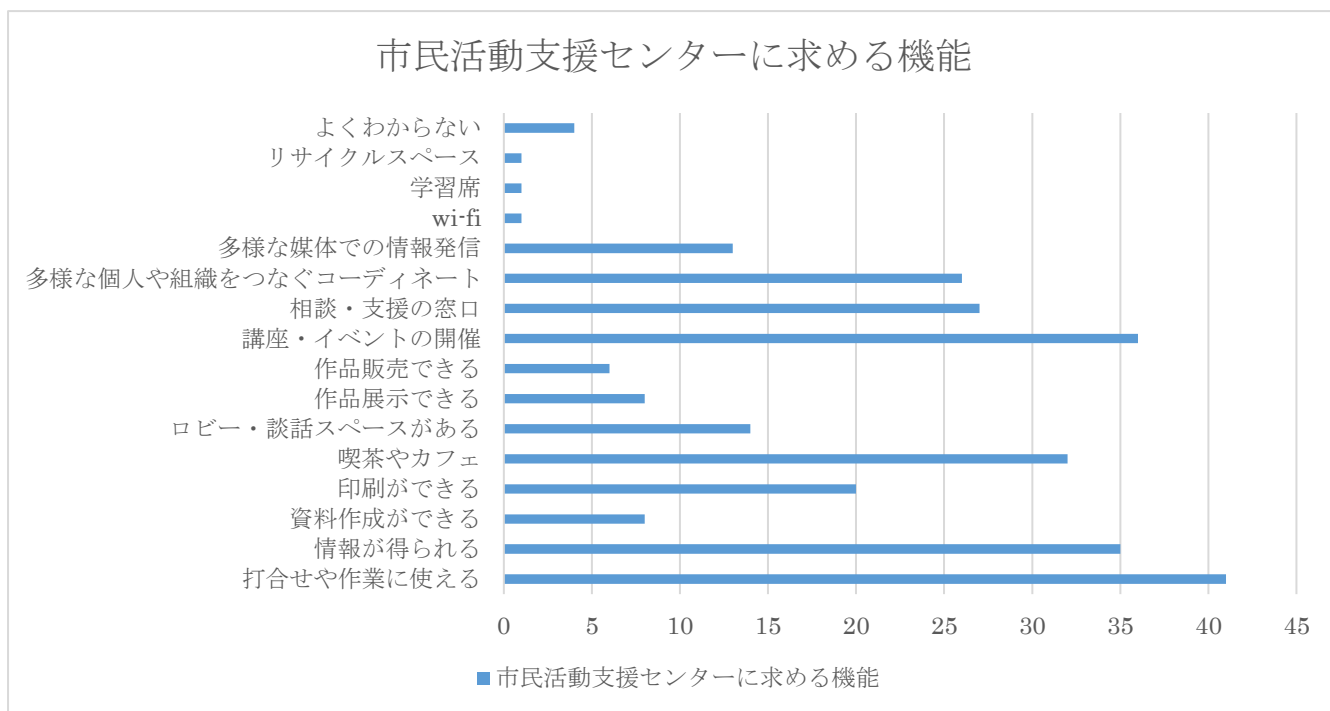
問 13-b 「利用しづらい」とお答えになった方はどのような点かご記入ください

- ・家から遠い
- ・市民活動支援センターに登録をしているが、様々なイベントで声がかからない。

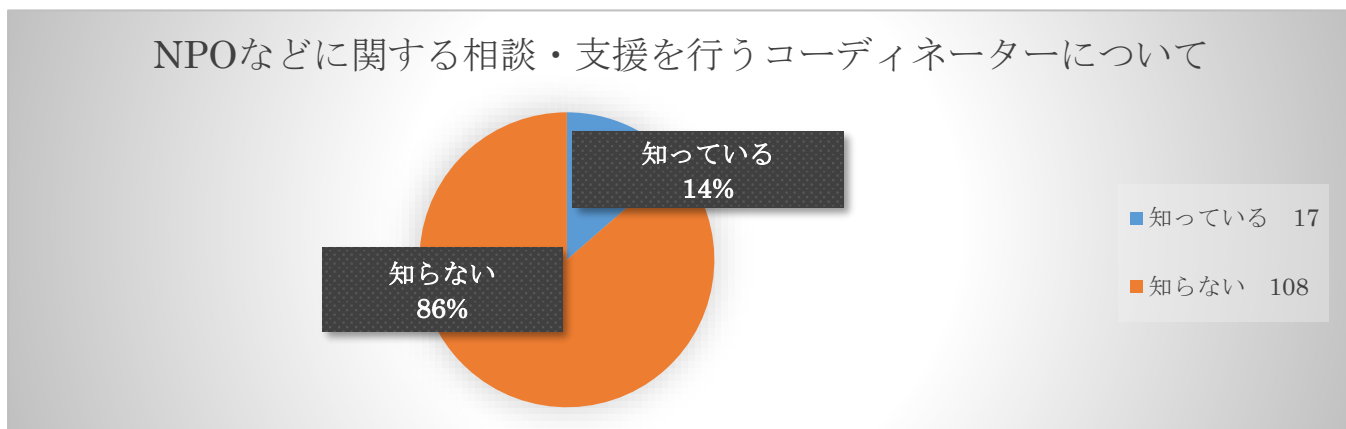
問 14 【問 12 で「利用したことがある」と答えた方へ】どのような目的で利用しましたか。



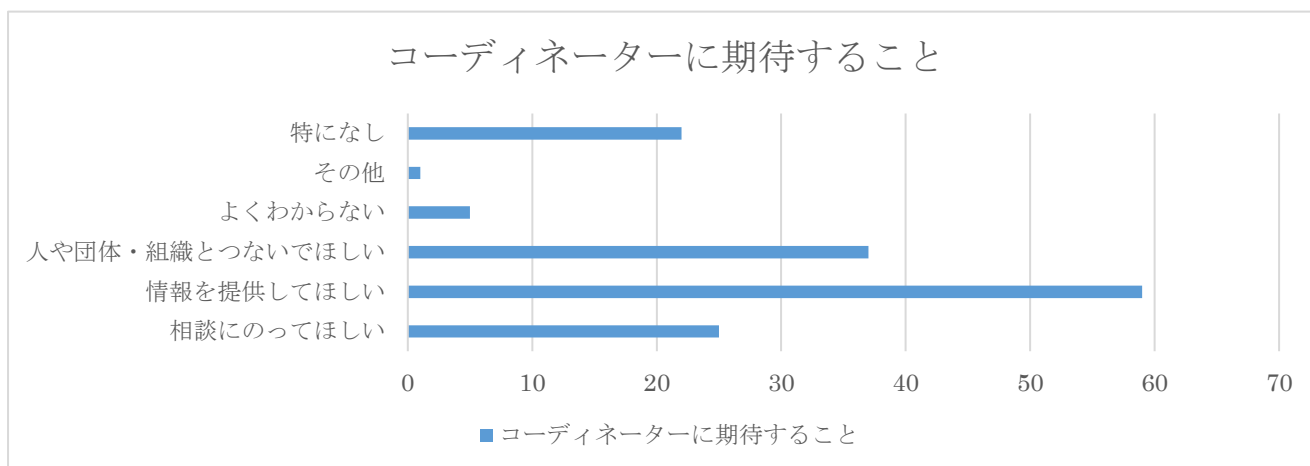
問 15 センターに求める機能はどのようなものですか。



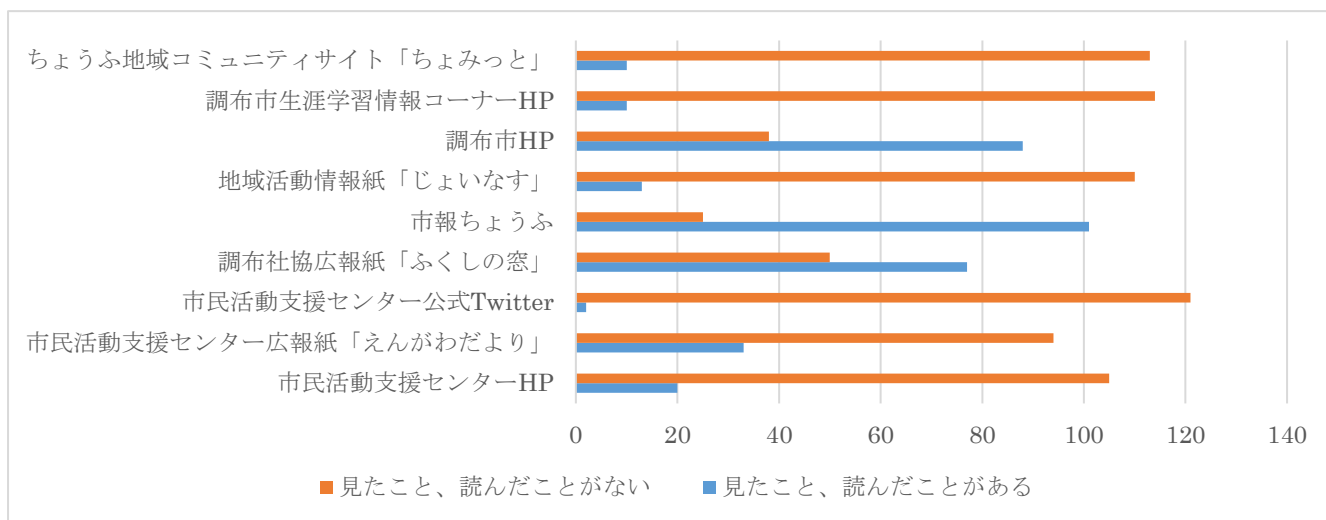
問 16 センターにはボランティアや NPO などに関する相談・支援を行うコーディネーターがいることをご存知ですか。



問 17 コーディネーターにどのようなことを期待しますか。



問 18 市民活動支援センターでは、センターホームページ、広報紙「えんがわだより」、調布市社会福祉協議会広報紙「ふくしの窓」等、市報や市のホームページ等を用いて市民活動に関する情報提供を行っています。見たこと、読んだことがあるものに✓をつけてください。



問 19 【問 18 でいずれか 1 つでも「見たこと・読んだことがある」と答えた方へ】各種広報媒体に関するご感想や掲載してほしい情報がありましたらお聞かせください。

【感想】

今のままで良いと思います。

どの手続きは何処で出来る、と一目で分かる情報が欲しい。

市報ちょうふ No.1674 に載っていた市長から受験生へのエールにとても勇気を貰い、受験を頑張ることが出来ました。ありがとうございました。

直接関わりが無い行事でも記事で拝見すると興味が出ると思います。

発行・更新を続けていってもらいたいです

ごみ分別辞典が便利で助かっています

情報誌として利用しています

市報が読みやすくなったと思います。レイアウトも良くなったと感じています。

地域のイベントの情報を教えてくれて助かります

市報ちょうふは必ずよみますが、充実した内容で良いと思う

市報ちょうふはカラーで読みやすく、毎回ひと通り目を通しています。

【要望】

新しく出来たお店の紹介等「オモハラリアル」のような地域の情報ウェブサイト

コロナの中、出歩くことが難しい高齢者のお手伝いボランティアを掲載してほしい

えんがわだよりの文字が全体的に小さくてよく見えません。

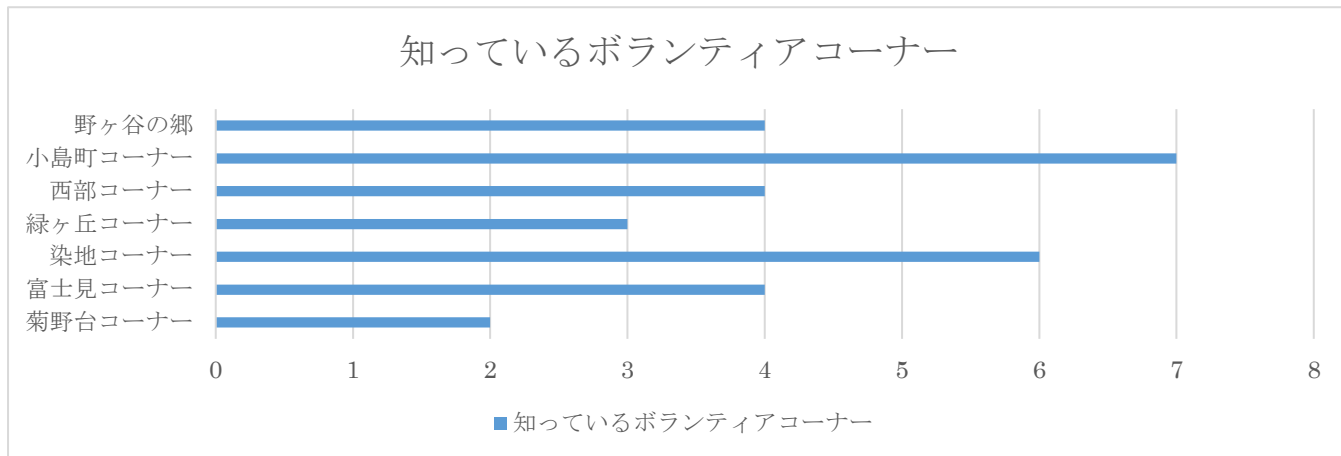
媒体の数は減らし、情報をまとめた的確な配信をしてほしいです。

市報、月 2 回発行は多いのでは？ 又、都や国と情報が一緒（とくにコロナについて）の場合は必要ないのではないか。

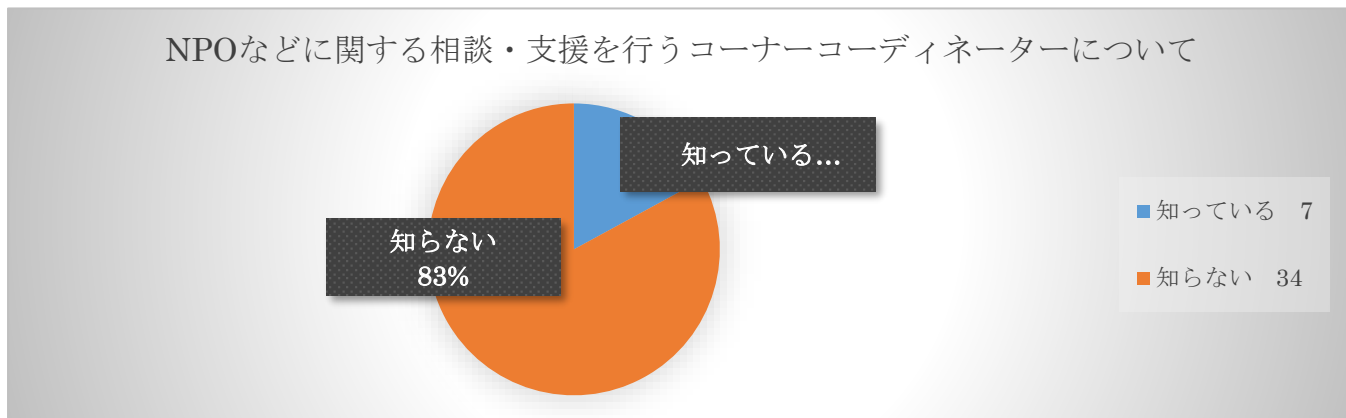
掲載内容が偏っていると思います。運営者個人の意図に沿うようなものしか掲載されていません。

情報発信を一元化してほしい。また紙媒体は希望する人だけが読むようにしてほしい。
 できれば内部障害者の雇用情報か訓練センターなどの情報があれば載せてほしいです
 調布市ホームページがスマホからだと欲しい情報にアクセスしづらく、使いにくい。
 活動団体や、ボランティアの日頃の活動の様子が知りたい。
 特になし

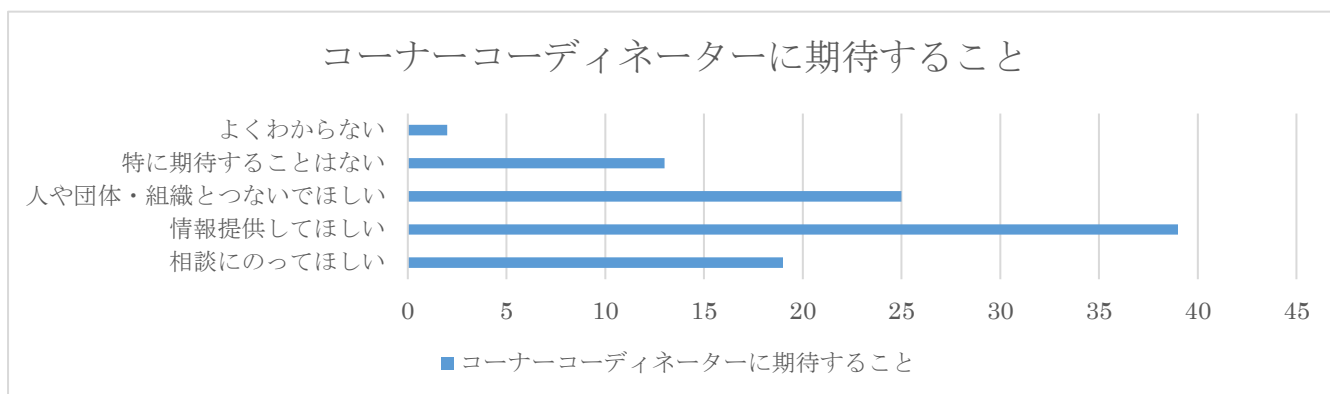
問 20 あくろす以外の市内7箇所の市民活動支援の拠点（各コーナー）についておたずねします。
 以下のコーナー（ブランチ）のうち、知っているコーナーがあれば選択してください。



問 21 【問 20 でいずれかのコーナーに✓をつけた方へ】各コーナーにも、ボランティアや NPO などに関する相談を受けるコーディネーターがいることをご存知ですか。



問 22 各コーナーのコーディネーターにどのようなことを期待しますか。



問 23 市民活動支援センターは「まちのえんがわになりたい」をコンセプトに人と人が集い、交流する場を目指しています。市民活動を身近に感じられるよう、みなさまの声を聞きながらこれからも情報提供、参加の機会づくりに取り組んでいきたいと思ひます。市民活動支援センターについてご意見などありましたらお書きください。29 件の回答

【市民活動支援センターへのご意見】

- ・活動を、もっと知りやすくしてほしい。ホームページは見えていないが市報は詳細まで読んでいる。
- ・不用品(衣類等)の物々交換を取り入れている市もあるので、あったらいいなと思ひます。
- ・取り組みはとても良いと思ひます。現在両親の介護をしている為あまり参加はできませんが、時々は地元の方と交流が持てると嬉しいと思ひています。
- ・昔はボランティアもしましたが、今は老年なので身体を使うボランティアは難しいです。お年寄りの話を聞いてあげるとか、子どもに本を読んであげる活動はできると思ひます。
- ・気軽に話ができて、相談に行っていますが、その中にもいい情報があつてあなどれません。このようなご時世で、集うこと自体が難しいですが、このような時だからこそ、人と人とのつながり、思いやり、温かさの気持ちが必要不可欠だと考えます。

その地域に住んでいるからこそ感じる風景や感情など、あらゆる年代や職種の方々と、触れ合うことの出来るコミュニティがあるというのは、とてもありがたいのではないかと思ひます。いつかは足を運んで、利用させて頂ければと感じました。

- ・性別、年齢を問わず様々な人が利用したいと思える場所になっていくためにも、広報活動にも力を入れていってほしいです。
- ・市民プラザあくろすは、ハローワークの利用で行きましたが、市民活動支援センターがあることは全く知りませんでした。今後必要になった時はぜひ利用してみたいと思ひます。
- ・まちのえんがわ、そんなあたたかい場所が調布にあつたのですね。一度、のそきに行ってみたいと思ひます。
- ・市民の交流場所として、さらなる活性化をのぞみます。
- ・個人的な感覚ですが、SNS が LINE と Twitter のみでは、字数制限もあり活動の素晴らしさが伝わってこない気がします。その点、Facebook 等も利用すればより素晴らしさが可視化できるような気がします。
- ・このアンケートで、いろいろな支援の場があることや情報を得る手段など知ることができました。これからはもう少し関心を持って、自分に可能なことがあれば参加してみたいと思ひます。
- ・興味があつてもどのように参加したらよいか、第一歩の踏み出し方がわからない。初めての人が気軽に参加できる場があればと思ひます。
- ・センターの活動がどのようなものなのか情報をいただける方法をまず明確にしてほしい。また何か意見があるときにくみ上げていただける簡単なシステムを構築していただけるとうれしいです。
- ・同封されたパンフレットで初めてセンターの存在を知りました。平日は働いているため、市役所などになかなか行けないので、土日でも利用できるのはありがたいです。今までは参加したことがないのですが、地域のボランティア活動には関心があります。月に一度など、無理のないペースでできることがあればと思ひています。
- ・支援センターの活躍を祈っています。

- ・落ち着いたら参加してみたいなと思います。また、リモートで雇用情報や相談、病気の人のリモートでの雇用情報など得られるところがあると私たち病人でも世界が広がるかなと思います。
- ・代表者や運営に関わる人が喫煙者であっても、禁煙を推進する団体とも公平に接してほしい。
- ・まちのえんがわになりたい、わかりやすい表現です。気軽に交流できる場所、良いと思います。
- ・特にありません

【考察】

IV 市民活動支援センターの機能強化に向けて

「自立した市民社会の創造」の実現に向け、多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら市民の主体的・公益的な活動を支援していくには、これからどのような機能を強化していく必要があるか。今回の調査結果を踏まえ、当センターが取り組むべき課題等を整理したい。

(1) 市民活動に関する意向や参加状況から見えること

■ 「(市民活動に) 関心があるがよくわからない」市民への支援

「市民活動に関心があるがよくわからない」と回答した市民が51%と最も多かった。この割合は、平成27年に実施した調査でも同様の割合となっていたため、市民の社会参加のきっかけづくりに取り組んできたが、残念ながら顕著な変化は見られなかった。

しかし、この「関心があるがよくわからない」と回答した市民の動機づけによって、地域の活動者数の増加が見込めるため、関心がある人の参加のきっかけになるような情報発信やイベント・講座の開催に一層注力することが必要であると実感した。今後も市民活動をより身近なものとして理解を広げるための取組みが当センターに求められている。

■ 調布のまちへの愛着を市民活動につなげる取組

回答者総数の約9割の方々が調布のまちへの愛着を「感じている」「やや感じている」と回答している一方で、市民活動に「参加している」「今後参加したい」と回答した割合は3割と、まちへの愛着が実際の活動につながっていない現状が見えてきた。

当センターでは、市民交流事業「えんがわフェスタ」やちょうふチャリティーウォーク等まちの魅力の再発見につなげる取組みを継続的に行っているが、今後は、まちへの愛着を活動の動機へつなげるための仕掛けや工夫を検討し、新たな要素を取り入れた企画を行う必要がある。

■ 多様な分野のボランティア活動に関する情報発信・コーディネート

参加した、または参加してみたい市民活動の回答で、最も多かった分野が「地域行事やイベントのお手伝い、観光ガイド」、次いで「趣味や特技を生かした活動」、「ゴミ拾いやリサイクルなど環境に関わる活動」、「子ども」と続いた。「趣味や特技を生かした活動」と答えた割合は、平成27年に実施した調査より増加しており、好きなことや身近なことを通じて地域に参加したい方が多いことがわかる。

このことから、従前より取り組んでいる生涯学習情報コーナーとの連携をより一層深め、「趣味の社会化」のアプローチを継続する重要性を実感した。その上で、当センターの情報発信において、多様な分野の情報発信を行うことはもちろん、参加のハードルを下げる仕掛けを検討する必要がある。

■ 様々なスキルを持った人たちとの出会い・仲間づくりのサポート

問11の今後の地域や社会との関わり方に関する回答の内容は、平成27年調査から変化はなく、地域に関わる際には「自分にできることで役に立ちたい」、「好きなことで関わりたい」、「新たな仲間を作っていきたい」という思いを持っている人が多い。当センターでは、こうした思いに添えていくため、相談者の希望に寄り添ったコーディネートや、人と人がつながるきっかけになる交流の場づくりを企画、推進していくことが求められている。

■ 市民活動に関する情報発信の工夫

市民活動への関心の向上、参加の拡大に向け、必要とする人に必要な情報が届くような工夫が重要であり、ホームページの効果的な活用はもちろん、えんがわだよりの内容の見直しや多彩な情報の掲載な

ど、改善を行う必要がある。

(2) 当センターの利用状況、当センターへの期待等（ランチ含む）

■「センターをよく知らない」市民へのアプローチ（センターの広報）

平成27年調査と同様、約6割の回答者が「センターを利用したことがない」と回答し、「利用したことがない」理由として「センターをよく知らない」と挙げている。また、センターに求める機能として、「相談・支援の窓口」と回答した方が多くいるにも関わらず、コーディネーターやランチの存在がほとんど知られていないという課題がある。

当センター開設から15年以上が経過しているが、一部の市民だけでなく、一人でも多くの市民に認知され、利用や参加につなげるための広報や発信力の向上に引き続き取り組む必要がある。

■「コーディネーターに期待すること」

当センターのコーディネーター及びランチのコーディネーターに期待することのいずれも「情報を提供してほしい」が最も多い回答であった。これまでもホームページやえんがわだより、日頃の相談の中で情報提供を行ってきたが、相談者に合わせた効果的な情報提供が行えるよう、引き続き工夫をしていく必要がある。

V おわりに

今回の調査結果から開設以降、15年以上が経過するも、いまだに多くの方々に「市民活動支援センター」の存在や役割が十分認識されていない状況が見えてきました。

地域への愛着を持ち、何か関わりたいがきっかけがないと考えている市民が多くいるにも関わらず、その思いにこたえるための情報がその方々に届いていないという現状を痛感しました。日頃から取り組んでいる情報発信や広報を今一度見直し、「情報を届ける」ために何が必要なのかを確認し、改善していかなければならないと考えています。

このように、今回の調査結果からいくつもの課題が提起されました。これらの貴重な声は、今後のセンター運営やビジョン策定に大いに活用し、今まで以上に市民に寄り添ったセンター運営ができるよう、職員一同努力していきます。

今回の調査にご協力いただいた多くの市民の皆様、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。また、ご報告まで大変な大お時間を頂戴し、大変申し訳ありませんでした。

今後も、当センターの運営に様々なご意見、ご要望をお寄せいただきますようよろしくお願いいたします。

調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター